

バス事業における現状と課題

1. 路線バス事業の経常収支

・路線バス事業は、経常収支が赤字であり、他事業(高速バス、貸切バス等)の収益による補填や各自治体の補助金により運営している状況である。

・震災の影響もあり、利用者や収支が震災前の状態まで回復していない状況であり、厳しい運営が続いている。

バス利用者の過去5年間の推移(千人)



路線バス事業の収支状況(百万円)



2. 乗務員の状況

・乗務員不足は業界全体においても深刻な課題となっており、不採算路線の減便等の対応を行っているが、乗務員は適正に休日の消化ができていない。

3. 今後の方向性

・これまで一部路線の廃止や運行頻度を低下させることで対応してきたが、乗務員不足等も考えると抜本的な路線の見直しが必要であり、植木・小島方面のバス路線網再編に取り組む。

【植木方面】植木を跨ぐ1日あたり時間帯別利用状況



# 【路線再編】植木・小島エリアの再編の方向性について(九州産交バス・産交バス)

## 【植木方面】再編の概要(玉名線)

### 植木経由玉名線における利用状況(全便)

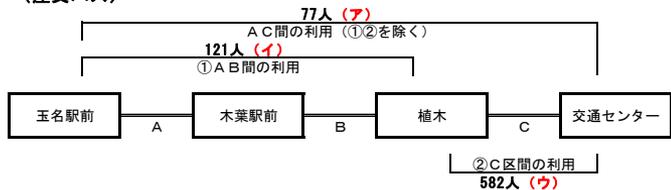
(H28.10~H29.09 平日1日当たり乗降データ)  
計 780人

(上下) 玉名⇄熊本

#### 【現状】

- ・熊本行きを植木を跨いでの利用については、計38人(直通便対応可29人、乗継9人)
- ・玉名行きを植木を跨いでの利用については、計39人(直通便対応可30人、乗継9人)

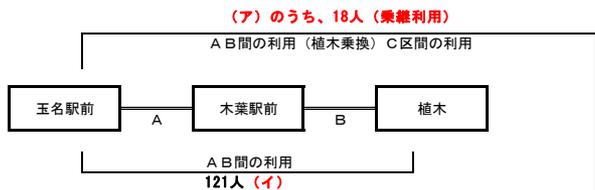
#### (産交バス)



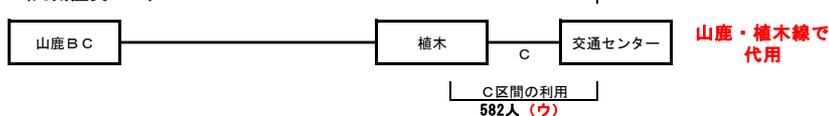
#### 【再編案】

- ・熊本行きは午前を、玉名行きは午後を中心に直通便を残し、他時間帯については、玉名駅から植木もしくは、木葉駅前間に運行(全便木葉駅前経由)

#### (産交バス)



#### (九州産交バス)



	人数	割合
乗継を必要としないお客様	762人	97.69%
乗継が発生するお客様	18人	2.31%
合計	780人	100.00%

## 【植木方面】再編の概要(南関線)

### 南関線における利用状況(全便)

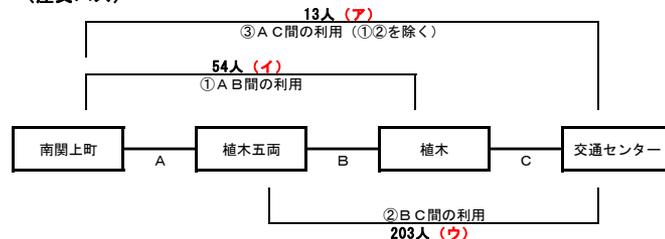
(H28.10~H29.09 平日1日当たり乗降データ)  
計 270人

(上下) 南関⇄熊本

#### 【現状】

- ・植木を跨いでの利用については、1日13名で利用が少ない(1便当たり1.1名)

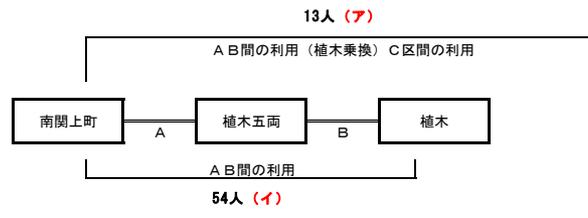
#### (産交バス)



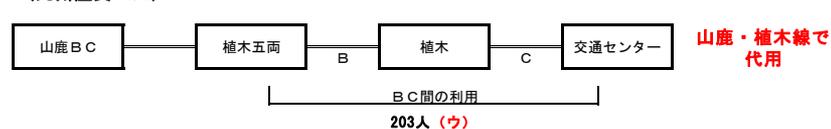
#### 【再編案】

- ・南関・熊本間の直通便は設定せず、南関・植木間にて運行

#### (産交バス)



#### (九州産交バス)



	人数	割合
乗継を必要としないお客様	257人	95.19%
乗継が発生するお客様	13人	4.81%
合計	270人	100.00%

## 【小島方面】停留所別車内乗客数(輸送断面)



## 【小島方面】再編の概要(玉名線)

### 河内經由玉名線における利用状況(全便)

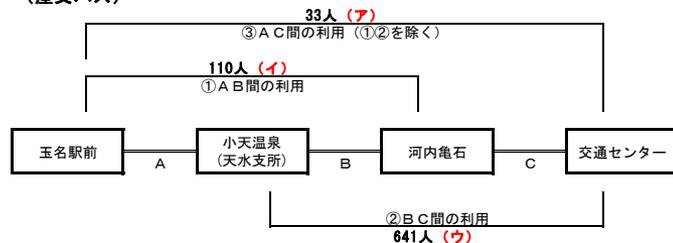
(H28.10-H29.09 平日1日当たり乗降データ)  
計 784人

(上下) 玉名⇄熊本

#### 【現状】

- 玉名方面での利用については、主に河内までの利用、
- 熊本方面での利用については、主に小天までの利用に分かれている

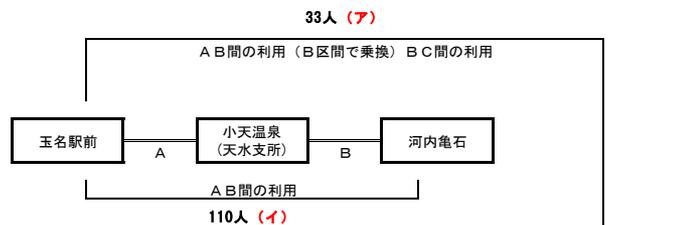
#### (産交バス)



#### 【再編案】

- 玉名方面からは河内亀石までの系統を、
- 熊本方面からは小天温泉(通学時間帯は天水支所)までの系統を新設

#### (産交バス)



#### (産交バス)



	人数	割合
乗継を必要としないお客様	751人	95.79%
乗継が発生するお客様	33人	4.21%
合計	784人	100.00%